

## 杉原千畝氏の長男弘樹氏の御子息 杉原千弘氏「祖父との思い出」

皆さん、こんにちは。県立瑞陵高校の皆さん、本日は誠におめでとうございます。私は杉原千弘といますが、祖父から「千」という字をいただいて、父親は弘樹と言うのです。千畝の長男ですが、それで一文字いただいて、千弘といます。今では立派なおじさんになりましたが、子供の頃は背も小さくて、可愛い顔をしていたので、よく女の子みたいだとからかわれましたけれども、今では立派な名前を付けていただいたと祖父母に感謝しております。

現在は、祖父の功績を伝える活動を国内外でしておりますが、本日の演題は「祖父との思い出」ということですので、教科書には書かれていない祖父の人柄とか、祖父から聞いたことをお話させていただきたいと思います。

祖父は、私が大学生の頃に亡くなったので、祖父のことを非常によく覚えております。今、思い返してみると、祖父が亡くなる時というのは、1か月くらい、起きることもままならず、食事もなかなか喉を通らない、段々段々、言葉も少なくなっていく、そういうふうになくなっていく祖父よりも、祖父がまだ若くて、海外で仕事をしていたり、あるいは家族で旅行した、自分の幼い記憶の方が、なぜか今蘇って来るのです。

祖父が私の記憶の中に登場するのは、自分が大体、4歳か5歳くらいの時ですね。当時、祖父は駐在員として、モスクワで働いていました。なので、日本に帰ってくるのが、年に数回、休みのときに、あるいは出張のときに帰ってくるのですが、いつも大きな荷物を持って、それがほとんどお土産なのです。孫とかみんなに配るためのお土産をたくさん買ってきて、まるでサンタクロースのようで、そんな祖父がいつ帰ってくるのかなあと、心待ちにした思い出があります。

やがて、私も中学生になると、いろんなことを祖父から学ぶようになるのです。特に夏休みはほとんど、祖父と寝起きを共にして、いろんなことを学びました。祖父というのは常に、非常に実直というか、規則正しい人で、毎日、同じ時間に起きるのです。そして、新聞を隅から隅まで読んで、午前中は僕に英語を教えるのです。そのあと、お昼を食べて、午後になると、妹と祖父と私で庭の掃除をするのです。庭は結構広かったのですが、毎日、毎日、掃除をするので、段々と綺麗にするところがなくなってくるのです。それでも毎日掃除をして、ついには花壇の中に入って、祖母の大事にしていたお花まで、みんなきれいにしてしまうのです。それで、母にひどく叱られて、次の日からは、「今日は何をしたらいいか」と祖父に聞くようになりました。

そんな優しいおじいさんで、食事中には冗談を言ったり、食後にはお皿洗いを手伝ったり、いつも笑みの絶えない、朗らかな、いいおじいさんでした。そんな祖父にあるとき、聞いたことがあります。怒ったことがありますかと聞いたのですね。すごく優しくて、朗らかな人だったのですが、少し考えて、こういうふうに言うのです。「腹の立つときはあったけれど、腹を立てることはなかったな。」と言うのです。禅問答のようで、キョトンとしていると、続けてこういうふうに言うのですね。「自分の中に悪いものがあれば、悪いものが巡ってくる。自分の中をきれいにしておれば、いいことが巡ってくる。だから、人の悪口を言ったり、むやみに相手の批判をしたりしてはいけない。」と言うのですね。ああ、なるほどなあと思ったのですが、さらに幼い頃に聞いたので、「神様は千弘にきれいな言葉をしゃべるために言葉を与えたのだよ。それが大難を小難に導くというか、変えてくれる。」ということを知った覚えがあります。

今でも、そのことを戒めとしていますが、とてもありがたい言葉だと感じました。今、思い返してみると、祖父というのは、私にとっても高価な思い出というプレゼントをしてくれたと思います。

こうやって、近年になって、祖父がいろいろと取り上げられて、孫の私にも皆さんの前でお話をする機会があります。それで、祖父がどのような幼少期を過ごしたのか、調べてみると、学校の成績はすごく良かったというのですね。だから、この瑞陵高校、以前、五中と言っていたそうですが、五中の方に入学できたのだと思います。

卒業するときに、非常に成績が良かったということもあって、父親から医者になりなさいと命じられるのですね。ところが、医者になりたくないということで、わざと受験に失敗するわけです。それはどうしてかと言うと、つまり、英語の教師になりたかったということなのですね。英語の教師になりたいという希望で、それは、この五中で英語に出会い、恩師に会い、自分も教職の道に進もうとしたわけです。その決断が、千畝青年の将来を大きく変えるわけですが、その後、外務省に入省して、多くの語学を身に付けます。英語を志していたので、法律とか、そういう勉強をしていなかったもので、3か月間で他の科目を集中して勉強したのですが、英語はタイムを読むだけにしたというのですね。科目と科目の間に。タイムを買って読むだけ。私も大学生になって、タイムを買って読んで見たのです。そうしたら、なんと読むのに時間がかかる。辞書を引き引き、とっても大変なのですね。それを休みの時間にタイムだけを読んでいたというので、当時のおじいさんはなんて英語ができたのだろうと、海外で生活したこともないのに、まあ、すごかったんだなと思います。

ました。

そして、試験に合格して、ハルピン、今の中国、黒竜江省というところで、ロシア語を学ぶのですが、どうやってロシア語を学んだのか、祖父が話してくれたのですね。それは、辞書を最初に買います。二つに割いて、常に持ち歩く。暇があれば読んで覚える。そして、寝る前に1頁ずつ、破って捨てちゃうと言うのです。まあ、なんとも信じられない、そんなことができるのかと、聞いたときはびっくりしたのですが、祖父が亡くなったときに、祖父の部下であった人がこういうことを言うのですね。あなたのおじいさんはすごく頭のいい人だったよと。モスクワに駐在していたときに、当時は、今と違って、メールとかファックスとかない時代ですから、テレックスというもので、電文が流れてくるのですね。それを日本語に落としてみて、こう読むらしいのです。読んで何をするのかというと、燃やしちゃうのですね。日本から来た指示書を。びっくりして、皆さん。これを全部、読めば覚えて、常にいつもその内容を引き出すことができたというのですね。ああ、あの辞書の話も本当だなと納得したわけですが、人間も鍛えれば、そのくらいできるのかもしれないが、ちょっと、特別な人だったようですね。

そして、生前の祖父を知る多くの方は、祖父のことをみなさん、先生と言うのですね。それは、ハルピンでロシア語を学んだあとに、ロシア語の講師をしたり、モスクワで駐在したりしていたときに、他者でも困っている人がいたら、助けて尽力してあげたというのです。なので、そういうふうになんか呼ばれて、英語の教師になる夢は果たせませんでした。多くの人から信頼、尊敬されていたようでした。

同時に、商売相手のロシアの人からも、「ジェネラル」と呼ばれていたらしいです。「ジェネラル」というのは、多分、日本語では「将軍」とか「長官」とか「司令官」とか、すごく位の高い人につける呼び名ですね。それで商談に行くと、必ず、偉い人が出てきて、商談が成功して、みんながハッピーに和やかに商談ができたというのです。

そんな祖父でしたが、晩年、祖父はどんな仕事についても、決しておろそかにしてはいけない、常に一所懸命に取り組みなさいと、よく言われたのを覚えています。

生前、リトアニアのビザの発給の事を聞いたこともありますが、幼い子供もいて、可哀そうだからビザを出してあげたのだよと、何回か聞いたことがあります。

時間もあまりないので、最後に祖父がまだ元気で、モスクワで働いていた時のエピソードを皆さんご紹介して終わりたいと思います。

当時、ソ連から、物を運ぶタンカー、大きな船ですよ、その発注を受けて引き渡すときの日本での進水式でのお話ですよ。進水式というのは、これから、こ

のタンカーが無事に役目を、務めを果たしますようにということで執り行う式のことです。これは実は神式で行うのですね。神式、つまり、神社から神主さんに来ていただくわけですね。なので、神主さんが、タンカーを引き渡すときに、その進行を担うわけですね。そのときに、やはり、大きなプロジェクトですから、ソ連や大使館から外国の関係者が多く集り、式に参列するわけですが、神主さんが挙げる祝詞だとか、次第だとか、これがいつも全くわからなかったというときに、祖父が祝詞を訳して、皆さんにお伝えしたところ、とても好評だったというのですね。皆さん、祝詞ってご存知ですか。ここに多くの生徒さんがいらっしゃるので、実家が神社をやっていますという方がいらっしゃるかもしれませんが。普段、あまり、祝詞って聞いたことがないですよ。ちょっと、祝詞をやってみますとこんな感じですね。「たかまはらに、かむずまります、かむろぎ、かむろぎのみこともちて」と古い言葉なので、なんだかよくわからないのですね。これを理解するためには、かなり古いというか、日本語に造詣が深かったのだと思います。神話の物語とか、たくさん出てきますので、それをさらにロシア語に訳したというので、まあ、皆さん、すごく喜んだというのですね。

このように、日本語も非常によくできた人だったと思います。

祖父が書いたものを後で読み返してみると、100年以上も前の人なので、ちょっと我々が今書き記す日本語とは違って、何か重厚と言うか、威厳があると言うか、重たいと言うか、逆にこういう日本語がわかっていたらすごいなといつも感じるわけですね。

ものの本によると、実は日本語を司る脳の場所と外国語を司る脳の場所は、はっきり分かれているそうですね。日本語だけは別のところを使うというのですね。ある研究によると日本語をきちんと正しくしゃべることが実は外国語を習得する近道であるとそういう研究もありますので、皆さんも日本語をきちんと習得されて、きれいな美しい日本語をしゃべる日本人であってほしいと思います。

この愛と知の花咲く郷里で学んだことを誇りに思ってください。本日はどうもおめでとうございました。(拍手)